（仮称）子ども未来館の整備は

問 設計委託費として約1億5千万円余りが計上されている。AIなど先端技術や本市の企業に蓄積された技術に触れ、それらを使ってこどもたちが未来にアプローチできる施設を期待するが、考えは。

答 自然や宇宙、技術、数の不思議、暮らしなどについて、デジタル技術を活用した没入感のある映像や、AI、AR※などの最先端技術をゲーム感覚で学べる体験、そして地元企業の技術力に触れる展示も取り入れ、こどもたちがわくわくできる体験型施設をめざす。

こどもたちが目を輝かせ、何度も訪れてくれるような施設、展示内容を作り上げていくことが第一と考えている。展示内容をこどもたちに分かりやすく伝え、体験学習をサポートし、深めるコミュニケーターも配置する。

市民病院増改築事業は

問 新本館1期工事が完成し救命救急センターの機能強化、48床の周産期母子医療センターの新設が予定されている。

準備状況や今後の取り組みは。

答 大学と連携を密にする中で新生児医療を専門とする小児科医や産婦人科医の確保に努めており4月からはさらなる増員をめざす。

運営には多くの看護職員が必要となるため、看護師養成校へのリクルート活動を通じた計画的な職員採用に加え、職務経験者の採用による実務能力のある人材も含め必要な職員数は確保している。

新たに整備する放射線治療装置や周産期関連機器などの医療設備については、診療ニーズに応じた仕様の検討を始め、新本館へ移転する対象機器の選定や医療機能への影響を考慮した移転スケジュールの策定など、専門コンサルタントの支援も得ながら準備を進めている。

8月の運用開始に向け、医療機器などの計画的な発注を進めるなどスムーズな移転につなげていく。

誠友会

田口（たぐち） 裕司（ゆうじ）

次期福山みらい創造ビジョンは

問 今年度は、計画期間を令和8年度から令和12年度の5年間とする新しい福山みらい創造ビジョンがスタートする年である。5年後のめざす姿やその実現に向けた考え方は。

答 この10年、福山ネウボラの推進や福山駅周辺のにぎわい再生、ばらのまちづくりなど、将来への投資に全力を傾けてきた。

その結果、子育て、にぎわい、暮らし、産業を支える社会経済インフラの整備は着実に進み、福山の景色は少しずつ変わってきた。

しかし、一方で、今もなお少子化に歯止めはかからず、若者の転出超過が続いている。こうした中にあっても市民が未来に希望を持ち、各地域ににぎわいが感じられるふるさと福山を子や孫の世代に継承していく使命が行政にはある。

少子化の要因は

問 少子化に対する現状として、出生数減少の主な要因は、婚姻件数の減少、夫婦当たりの出生数や女性人口の減少の3つに大別されている。この分析に対する本市の受け止めは。

答 人口動態統計における本市の出生数は、10年間で約33％減少している。同期間の婚姻件数は約28％減少しており、出生数の減少率と同程度となっている。国全体としては、夫婦当たりの出生数が近年大きく減少していないこと、また、本市の平均初婚年齢も大きく上昇していないことから、出生数の減少は婚姻件数の減が大きな要因を占めていると考えている。

この主な要因の一つが若年女性の人口の減少である。女性の婚姻件数のうち約9割を占める20歳代と30歳代の女性人口は、この10年間でそれぞれ12％、26％ともに減少しており、同年代の男性よりも減少率は大きくなっている。

出会いの場

※AR：実物の風景の上にCGなどを重ねて表現する技術